

個展「under pressure」

換気そのものが作品「大胆」

ACAC 評論家・榎木さんトーク

青森市の青森公立大学国際芸術センター青森（ACC）で6月27日、匿名アーティストグループ「EVERYDAY HOLIDAY SQUAD（エブリデー・ホリデー・スクワッド）」による個展「under pressure」のトークイベントが行われた。個展の最終日に行われ、美術評論家の榎木野衣さんと、個展を監修したSIDE CORE（サイドコア）の高須咲恵さん、松下徹さんと、西広太志さんが、展示



「EVERYDAY HOLIDAY SQUAD」による個展「under pressure」の展示最終日に行われたトークイベント。榎木さん（左）と、展示を監修した「SIDE CORE」のメンバー＝ACAC

から感じたことや、展示に込めた思いを語り合った。展示は、青函トンネルなどを調査する本県でのフィールドワークにインスピレーションを得て制作。「環境の循環」をキーワードに、展示場内に風を巻き起こす巨大な換気装置を完成させた。新型コロナウイルス禍における換気についても考えさせる展示となった。

松下さんは、青函トンネルが完成するまでに、異常出水が何度もあったことや、トンネル実用化後も毎分20トンの水を排出し続けなければならぬことに触れ、「その場所を継続するためにメンテナンスし続ける必要がある」と展示に込めた思いを述べた。

榎木さんは「（コロナ禍の）今展示を行うということとは、距離や換気の問題があり、それに注意しながらやるということ。その中で、換気そのものを作品にするというのは大胆」とし、「あなたにある竜飛岬と展示場があまり分け隔てられておらず、それが別な循環をなして、会場と竜飛岬が連動しているという感じがした」と語った。（山谷佳澄）